

## 西表島の大原地域気象観測所（アメダス）

乾燥地研究センター 木村玲二

2012年12月24日、西表島の大原地域気象観測所（アメダス）を訪れました。この日は沖縄も寒波の影響を受け、西表島も16℃程度と寒い1日でした。西表島には石垣島から船を使い、35分ほどで着きます。島の面積は約290 km<sup>2</sup>、周囲は130 kmであり、沖縄県内では沖縄本島に次いで第2位の大きさです。行くとよく分かりますが、島の面積の90%は亜熱帯の自然林で覆われ、山が海の間近にまで迫っており、平地はほとんど見られません。島の幹線道路は県道215号が白浜地区から大原地区周辺まで島の東岸沿いを走っているだけで、内陸や西岸沿いを車で走ることが出来る道路はありません。

道路を車で走っていると、イリオモテヤマネコを見ることは叶いませんでしたが、野生のシロハラクイナやイノシシを見ることが出来ました。



写真1. 島のあちこちにある注意看板



写真2. 由布島に渡る水牛車

さて、東北大学名誉教授の近藤純正先生が2008年3月に西表島特別地域気象観測所を詳細に調査されていますが、大原アメダスは島の南東方向にあります(北緯24度15.9分, 東経123度52.3分, 標高33 m)。周囲のほとんどはサトウキビ畑で、今の時期は刈り取りが一段落し、新たな植え付け後でした。

東は約700 m、南は約1 kmに海が開けており、西約170 mには山が迫っています。西に山がある以外は、この時期は視界が開けており、理想的な観測条件に思えますが、サトウキビは生長すると2 m以上になるので、温度計(高さ1.5 m)の観測値が群落の影響を受ける可能性があるように感じました。



図 1. 大原アメダスの位置 (赤枠内)。Google earth から作成。



写真 3. アメダスより東側を望む



写真 4. アメダスより西側を望む